

寺報 善 巧

発行
 938 富山県下新川郡
 宇奈月町浦山 4 9 7
 白雪山 善 巧 寺
 宇奈月 0765 (65) 0055

四月二十三日 午前十時より
 第 13 回 慶びの春
 花の誕生会
 初参式、チューリップ、縁日
 家族そろってお参り下さい。

寺
ごよみ

四月

お講・下村

雪ん子劇団新学期 新
 学期を迎えて、新団員
 を募集中です。浦山以
 外の方でも、気軽にど
 うぞ。

お寺の学校開校式 花
 まつり、盆踊り、その
 他いろいろお楽しみ一
 杯のお寺の学校へいら
 っしゃい。

お講・栗虫

慶びの春
 チューリップの開花に
 合わせて一週間くり上
 げました。おしゃかさ
 ま、親らんさま、そし
 てご先祖やおじいさん
 おばあさん、お父さん
 お母さん、子や孫の誕
 生をよろこぶ法会です。
 初参式もあります。お
 待ちしています。

雪ん子劇団創立十周年記念特集号



T V 各局で放送された雪ん子劇団十周年公演のもよう

「雪やこんこ 霰やこんこ
 降っても降っても
 未だ降り止まぬ」

私にも子供の時がありました。
 雪と見ると大騒ぎで外へ飛び出
 し、雪投げをしたり、雪滑りを
 したり、私達三人兄弟の目の色
 は変わったものです。

子供は、走るように出来てい
 るのです。叫ぶように出来てい
 るのです。踊るように出来てい
 るのです。

そういう天性の性行を、
 適確に引き出し、一人か
 ら十人に十人から六十人
 へと集団に迄組織して来
 たのが、雪ん子劇団です。

その劇団が生れて十年の
 記念公演を迎える。心か
 ら、おめでとう、と大き
 な声でお祝いの言葉を贈
 りたい。

此の劇団は、花屋の店
 先からとつて来た培養さ
 れた高価な花々ではあり
 ません。それこそ、野に咲く目
 立たぬ自然の花です。

日本の演劇というものが、毎
 年、大がかりになり派手になり
 観客動員数を無理矢理に増やし
 ている傾向にあるとき、雪ん子
 劇団は、商業劇団に対立する素
 人劇団として、一人前の力を既
 に備えるまでに成長しておりま
 す。片田舎の小学校の子供たち
 が、此処迄成長したのは、そ
 れなりの理由があるからです。

雪ん子十周年

どんな指導者でも、無から有は
 出てきません。日本全体からい
 えば、どちらかといえば、ピラ
 ミッドの底辺に住む子供達、新
 しい文化に触れることの少なかっ
 た子供達。それが、雪ん子劇団
 の主役です。此の主役の子供達
 が、実にいい科白を口にします。
 舞台一ぱいに走りまわります。

それは、都会の子のように、飾
 り気がないからです。田舎の子
 供といつて、都会の子供
 達に対する劣等感がある
 のではないかと思いがち
 です。そのようにさせた
 のは、大人達です。先ず、
 此のいわれなき劣等感を
 克服し、どこでも、だ
 れにでも、話しかけるこ
 とが出来る子供達をつく
 らねばなりません。雪ん
 子劇団が、ことばの教室
 と銘打っていることに、御
 注目願いたいと思います。

演劇というのは、「あそ
 び」です。人間のする「あそび」
 です。本来、人間は、物をつく
 るものであり、物を考えるもの
 であり、そして「あそび」もので
 す。あそびは、人の心を「ゆた
 か」にし、たのしくし、そして
 やすらかにします。文化という
 ものの緒口は、恐らく「雪ん子
 劇団」のもっている隠れたるエ
 ネルギーから築かれるに違いあ
 りません。

住職 雪山俊之

とやまの生涯学習

X No.86

平成元年 3 月 15 日

編集発行
富山県民生涯学習
カレッジ(県民カレッジ)
〒930
富山市舟橋北町 7-1
富山県教育文化会館内

随 生涯学習 想



「雪ん子劇団」

からの 問いかけ

雪山 隆 弘

生きた言葉を使っていますか？
家族みんなで話してませんか？
自分の思いをはっきり表現できますか？

十周年を迎えた、ことばの教室「雪ん子劇団」からの問いかけです。

いかがですか？ ひよつとしたら、近頃めっきり、生きた言葉が少なくなつて、家族で話すこともなく、自己表現もままらなくなつてきているんじゃないですか？ 生きた言葉を使わなくなつた原因は、テレビでしょうね。ブラウン管を通して出てくる言葉を、生きた言葉と錯覚している人多いですね。あれは音声です。機械を通して流れてくる言葉です。テレビは合づち打ちません。一方的な音声だけを聞いているだけでは、まったく生きたコミュニケーションはゼロだつてこと、あまり気づいていないんじゃないですか？

次の、家族みんなで話さなくなつてきたのはどうしてでしょう。先日、富山で行われた「これから懇」つまり、これからの家庭教育を考える懇談会座長の木村尚三郎・東大教授の提言にも、「これからは、コンビビリアテの時代。つまり共食の時代といえますか、家族が一緒に食事をするということが最も望ましい。それも、ただ、生きた者同士がというのではなくて、レリギオ、つまり宗教的情操をも加味して、同じ食卓で先祖とともに食事をする——こうしたなりわいが大切だ」といわれておりました。家族が共に食事をする——この当たり前のことが、いまや当たり前ではなくなつてきて、みんなバラバラになつてしまつてゐる。どうしてなんでしょう？

これも答えはカンタンで、要するに、家族みんなのサイフが別になつたからなんです。でしょ？ おじいさんも、おばあさんも別々のサイフ。おとうさんもお母さんもそれぞれサイフ。子供だつてちゃんとサイフを持っている。昔は、一家にサイフが一つで、おじいさんが、ヨシと首をたてにふらなかつたら、孫の学用品だつて、お母さんのはきものだつて買ってもらえなかつたんです。だからみんな年寄りのいうことも、親のいうことも聞いたんです。食事をするがら、同じことのくり返しだとわかつていても、おじいさんの昔話をガマンして聞いたんです。ところがいまや、サイフは別。だれのいうことも聞かなくてすむ。だれの世話にもならなくてすむ。おまけに各自、部屋は別。みんな自分勝手に仕放題ということになつて、家庭に言葉がなくなつたんじゃないですか？ そんな中でスクスク育つちやうもんだからみんな言葉が少なくなつて、自分の思いをはっきり表現できなくなつてしまつた。これはひよつとしたら、悲劇、いや、もっとおそろしいホラー劇ではないでしょうか。

人類がだんだん言葉を失つてゆく……こわいですね。そのきざしがなんと、児童文化を育てる催しにもあらわれてきている。プログラムの九割が、踊りと器楽演奏と、ロビーの絵画展……だれも言葉を使つてない。ちよつとこわいなと思つてみて下さい。

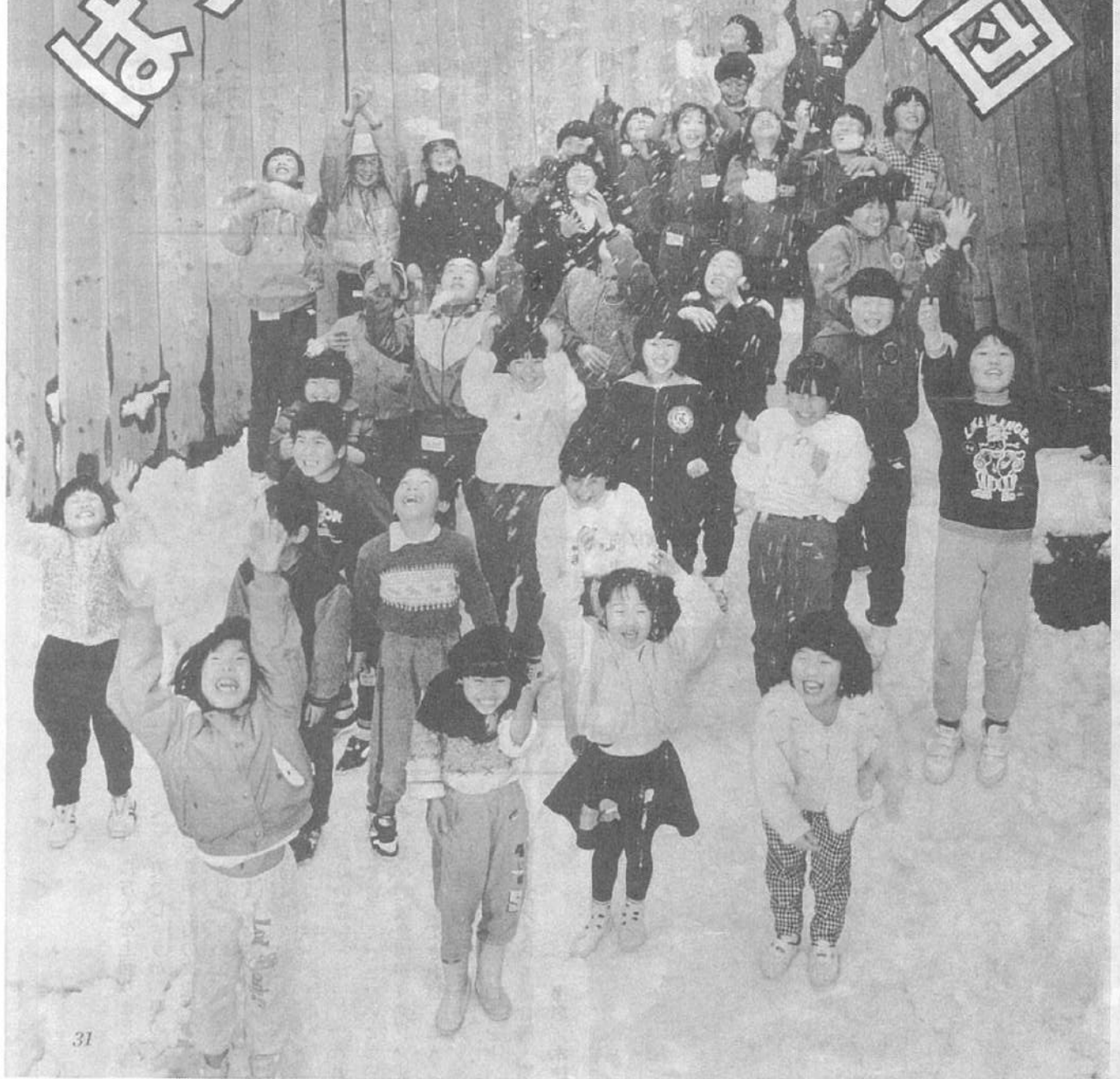
ま、そんなわけで、生きた言葉を使いましょうや。子供だけじゃない。大人だつて、なさけないよ。テレビでも生涯教育でも、受ける一方。聞くばかり。で、口を開けば、批評、悪口、お噂……の暗い否定の言葉ばかり。おーい、みんな、生きてるぞ、よかったな！ ねえ、ちよつと、たまにはハッピーにこんな言葉を、ハラの底から叫んでみない？

(「雪ん子劇団」主宰)

家の光4月号

ともに遊びともに学んで十周年

はつらつ雪ん子劇団



31



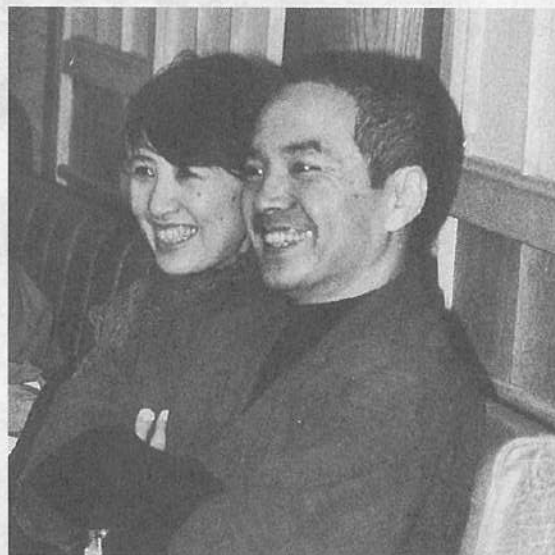
家の光 4 月号

富山県下新川郡宇奈月町浦山の善巧寺という寺に「ことばの教室・雪ん子劇団」という児童劇団があります。わたしと妻の玲子がこの劇団を創立して今年で十年。一山村の僧侶として、小学生たちに明るくのびのび、表現力豊かな子どもに育ってもらいたいとの願いを込めて始めました。

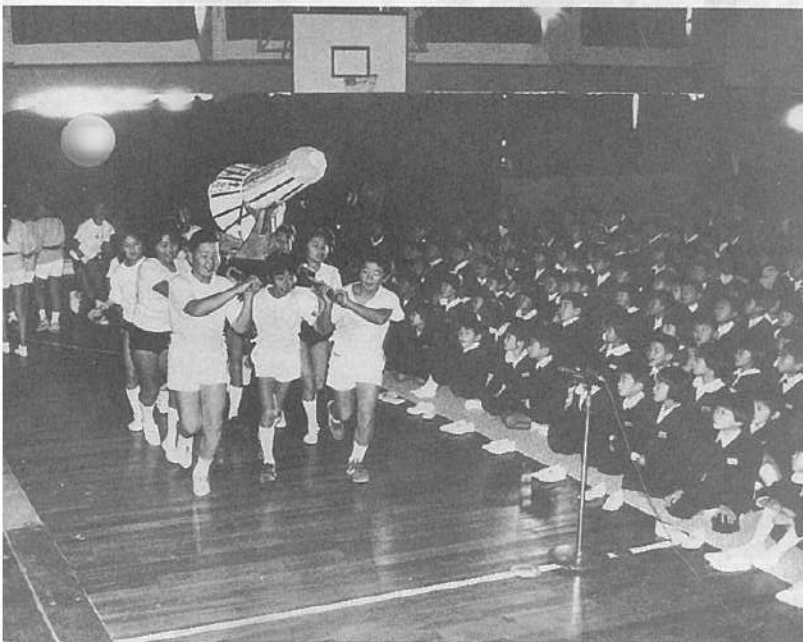
毎週月曜日の放課後、お寺に集まってくるのは、浦山小学校全校児童百六十人中六十人。練習は、まず「からだ体操」。つぎに早口言葉や発声練習をする「ことばの体操」。さらに、わたしの説教「こころの体操」が少しあつてから、本格的な劇のけいこに入ります。

レパートリーは、手話と踊りを取り入れたミュージカル『うちのとうちゃんえらいんだ』や、縫いぐるみ劇、民話劇など十本余り。公演は、公民館での春秋の定期公演のほか、県の子どもフェスティバルや招待公演など、年間十回を超えます。これまでの観客動員

▶雪山隆弘さん(48)、玲子さん(47)夫妻。ともにプロの演劇、放送経験を持っている



◀ 3 月の 10 周年記念公演に向けて、猛練習の真っ最中。演技指導にも力が入る



数は、六万人を上回りました。ご褒美でしょうか、県のフェスティバル大賞や、町の文化功労賞、福祉協議会賞など、ずいぶんたくさんの方の賞をいただきました。

雪ん子劇団ではこれからも、生きたことばをつかい、家族みんなと話し合い、自分の思いをはっきり表現できる子どもを育てていきたいと思っています。そして、地域全体がワクワクするような劇づくりができれば、こんな幸せなことはありません。

雪ん子たちに熱い拍手を！

文／善巧寺副住職・雪山隆弘
撮影／本誌写真部

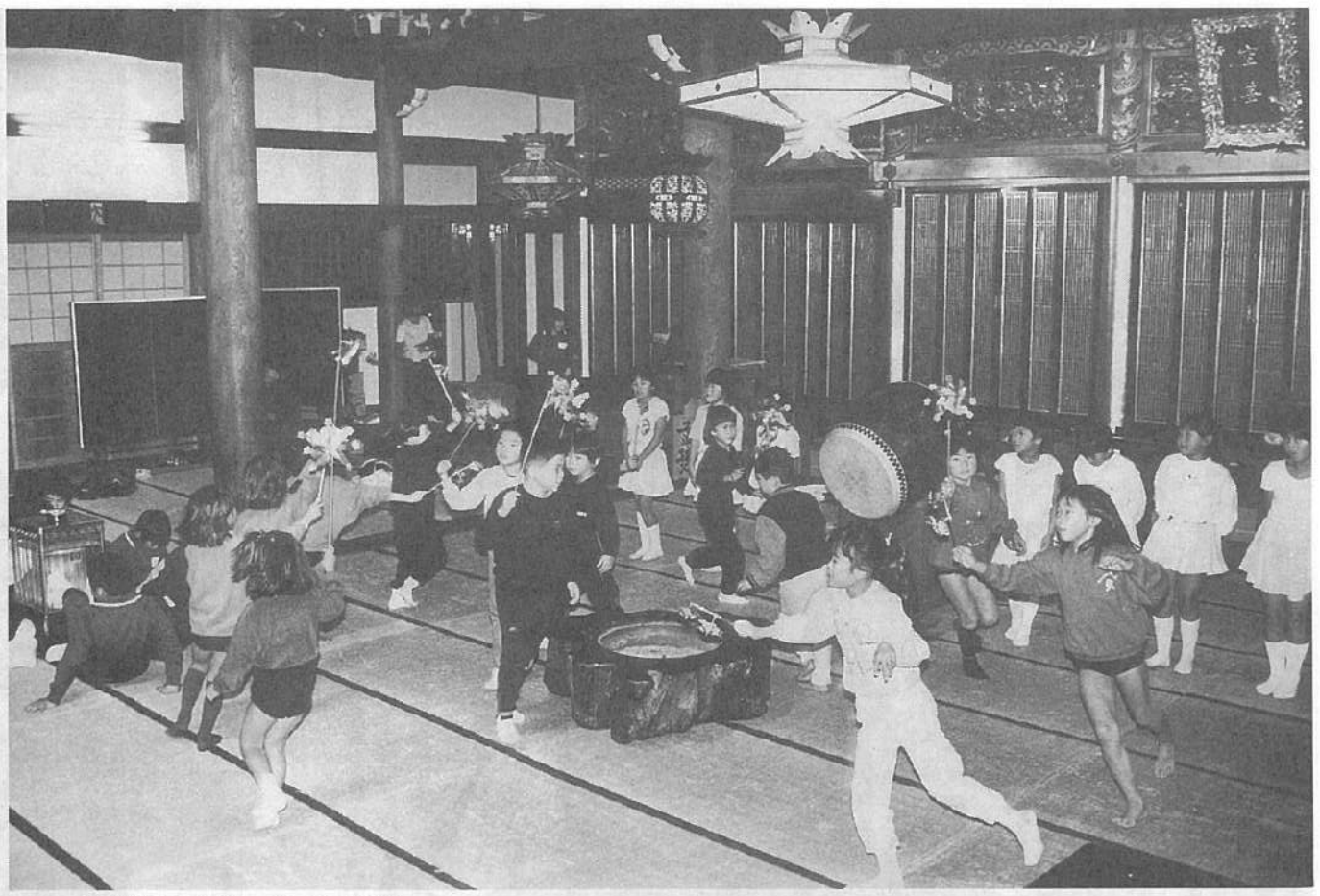




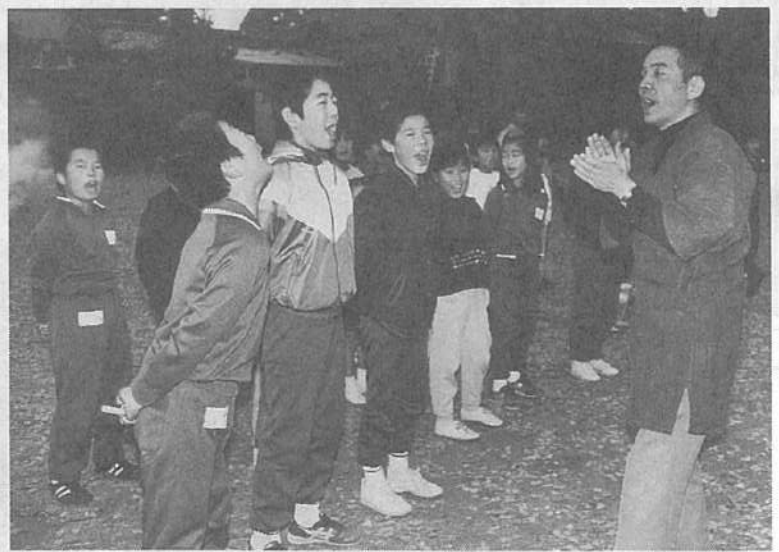
◀民話劇「ちづる」の舞台裏。
小道具や舞台装置も、みんな
で協力してつくったものだ

▶昨年11月、砺波市立東部小
学校での公演。「みんなに見
てもらえて、うれしかった」





▲百畳敷きの本堂に、雪ん子たちの喚声が響きわたる。低学年の児童を中心にした『こどものまつり』の練習



▲「はい、もっと大きく口を開けて」声は腹から。「ア・エ・イ・オ……」と発声練習で寒さを吹き飛ばす



◀公演のときは劇団卒業生の中学生たちが応援に駆けつける。地域に根ざした劇団としての、よき伝統だ

見どころは、劇団の活動
に力を入れて、次世代を

家の光 4 月号



10年目迎えた雪ん子劇団

花咲かせた宇奈月の男先生・女先生



遊びから育つ表現力

3月記念公演
練習励む60人



下新御堂、月明浦山、神妙寺（せんぎょうじ）の副住職、置山勝蔵（おきやま しょうぞう）が、珍子（めづこ）を主宰する「型子（かたこ）劇団」が結成以来、今年で十年目を迎えた。百三十回を超えて上演を重ね、約六万人の観動員を記録。山間の村に生まれ育った児童劇団といふような文化は、いま、地域に「かりと」根付き、大きな花を咲かせている。三月に迫った十周年記念公演をめざして、郷里に訪ねた。



▲ 本堂横の広間に集合して、公演の打ち合わせをする劇団員と雪山さん
＝下新川郡宇奈月町浦山の善巧寺で



さんをつともな
ちは「男先生」
と呼び、要玲子
さんを「女先
生」と呼ぶ。

力が豊かなどとはなちが育ってほしい、それが山田さんの狙いだった。

練習は毎月曜日の放課後、塾やスポーツ少年団、小学校の行事とぶたはなはなしい子どもたちもこの日は連れだつて集まつてきて、目算もある寺の金盃がにぎやかな声であふれかえつた。子どもたち

雪子子のレバリーは民話劇、ぬいぐるみ劇、真面目など十二本を数える。なかでも、父別に尊敬できる人に向つてほしいとの子どもたちの願いを込めた手帖「ミツガル」のちのちの子どもさん、えらいんだ、ほ、劇団創立以来年間続けてきたロングラン作品で、人気も高

入演
 はまず鬼ごっこなどの遊びをたづなり楽しめ、それからはいりこが始まる。阿手を伸ばし、顔を回したのち「かたの体」を呼吸法から早く言葉で「弱」を練習することの「体操」を「山」さんの説教「この「体操」を少し続けた後、腹技

「遊びの楽しさが、そのつま
み取の大事な基本になる。練習
練習と思わず、遊んで、もち
ろに反動神経なりの自分自身に
いてゆくんでは」と雪山さん
に、それで練習はなかなか厳
しく、本堂では何度も雪山さん
大音が飛び交う。そんな雪山
さん、

劇団に入り、劇団「四季」の研
究生になつたなどの頑固好き。
去年の春には腸がんで倒れ手
術をする、こゝろハブニングもあ
つたが、「こゝまでこれたの
は、いつも新しい感動があつた
から。そして子ともちががつい
てきつたからです。みなさ
んのやうにいますで、子と
もちが夢と文化をもつた大さ

10年上流が続いている人気
のロングヘア・ミニ・シカル
「うちのとうちゃん、えら
いんだ」のラッス・ス
「昭和四三年八月、下所川郡
宇奈月町新山の町中央公民
館で」

く育てて下さる」と呼び掛けて
いる。

男々團員の十周年記念大会
は三月十六日、宇奈月町新山
の町中央公民館で開かれる。開
い合わせは葛岡寺（〇七六五
六五五・〇七五五）へ。



お祝いのメッセージ

雪ん子劇団十周年おめでとう
ございます。ますますのご発展
を！
(日本児童演劇協会)

お祈り申し上げます。
(富山県知事 中 沖 豊)

創立十周年記念公演の開催を
祝し、今後ますますのご発展を

十年間のすばらしい活躍をた
たえと共に、さらに一段と飛
躍されますよう。

(県芸術文化協会 大島文雄)
雪ん子劇団十周年を心からお
祝い申し上げます。地域に根ざ
したご活躍を！
(北日本新聞 深山 栄)

雪ん子劇団十周年誠におめで
とうございます。これからも、
子供たちと一丸となり、さらに

飛躍されますように――
(トヨックス 宮村正司)
創立十周年おめでとう
(県善意銀行 中井精一)

劇団創立十周年を心からお祝
い申し上げますと共に記念公演
のご盛会をお祈りいたします。
(黒部市長 荻野幸和)

十周年記念公演、誠におめで
とうございます。
(井波町長 川原喜正)
雪ん子劇団からの発信が、全
国津々浦々へこだまするよう、
ますますのご発展を！
(砺波市教育委員会)

十周年を心からお祝い申し上げ
ます。
(宇奈月町長 野崎吉郎)

祝 創立 10周年

記念公演

3月26日(日) 午前の部／10時より
午後の部／1時より

宇奈月中央公民館

地鉄浦山駅下車徒歩10分

宇奈月夢を語る会
6月9日(金) 午後7:30
宇奈月・浦山 善 巧 寺

ことばの 教室 雪ん子劇団

富山県宇奈月町浦山497 電話(0765)65-0055

「雪ん子劇団」十周年に寄せて

吉岡 たすく

演じる

子どもたちが劇にとり組んでいる
子どもたちが一生懸命に演じている
目が輝いている
顔が生き生きしている
体がすなおに動いている
子どもが自分でない別の
新しい人間を演じている
その中



おめでとう

病 院
☎(0764)32-6668
願 寺
☎(0764)21-6672
ッ ク ス
☎(0765)52-3131

日 清 紡 富 山 工 場
富山市堀15 ☎(0764)23-4561
株 式 会 社 丸 八
魚津市北鬼江364 ☎(0765)24-1311
吉 田 工 業 株 式 会 社
黒部市吉田200 ☎(0765)57-1111 (順不同)

や熱い拍手をいただいて雪ん子は幸せです！

今日はみなさんの人生のすて
きなモーメント。あしたからの
心の灯、あかるくともして下さ
い。(文芸座 高尾ますみ)
十周年おめでとうございます。
オギャーとうぶ声を聞いたのが
ほんのすこし前だったような気
がします。十年って早いですね。
雪ん子を巣立っていったたくさ
んの子供たち、きつとすてきな
青春を過していると思います。
そしていま、雪ん子でがんばっ
ている子供たち、すばらしい仲
間の中で、いっしょうけんめい
光り輝いて、すてきなお芝居、
たくさんみせて下さい。男先生
女先生 雪ん子みんなに乾杯
(劇団フロンティア)

すばらしい演技をみせてくれ
た雪ん子劇団の皆さん、創立十
周年おめでとうございます。今
後とも、雪山先生を中心にがん
ばって下さい。
(富山市広田校下児童クラブ
会長 水野一郎)

お祝いのプレゼント

菅俊男、大藪守節子、有馬誠哉、菅野印刷興業、野崎吉郎、坂井守、内村志美雄、中谷延之、中島昭雄、本崎正富、山崎睦子、鬼原勝次、高島有哲、神子勉、河村勇喜雄、野畑博、林与志男、宇奈月町社会

福祉協議会、青少年育成宇奈月町民会議浦山支部、中村慶一、浦山小学校、浦山小学校PTA、会長高田勉、米沢、澤田最一、西坂吉晴、浦山婦人会、中山慶太郎、菊地良造、野畑一雄、田中まつる、森内庄一、八木秀雄、高島

祥子、河村早苗、谷口みよ、谷口正、新保栄一、河村純孝、橘照子、田中百合子、中雅之、松本均、河村とし、上坂好次、岩上巳之助、桶口和丸、山口順一、開澤泰久、木内哲子、野畑松二、菊地二美子、若林昌子、藤の木小PTA、宇奈月夢を語る会、花の会、雪山俊之喜子、善巧寺総代会

（お花、お菓子、お酒、ジュース）中沖豊、須田開代子、浜美枝、利井興弘晃子、クリエートプロモーション松岡社長、野島とも子、有馬美由紀、劇団フロンティア、榎稔、福島美穂子、富山第一ドライ友田道治、雪山俊之喜子。

（敬称を略させていただきました。）

（浜美枝）

（祝儀）

ことばの教室 雪ん子劇団

KNB全国ネット放送決定！
雪ん子劇団只今10才
5月5日全国ネット 5月6日KNB

公演ビデオ

- 第1巻 「ことばあそびうた」
「うちのとうちゃんえらいんだ」
- 第2巻 「ちづる」
- 第3巻 ミュージカル「桃次郎の冒険」

記念出版

ことばの教室「雪ん子劇団」

男先生と女先生が雪ん子劇団の10年の歩みを劇とお話と300枚の写真でつづった感動の書！ B6版 320頁・頒価1,800円

子どもとともに
子どもたちと話しあう
子どもたちと考える
子どもたちと創りあげる
子どもたちと劇の中で生きる
子どもたちと人間の生き方を
体を通して知る
雪ん子劇団が十年も続いている
すばらしいと思う



生きたことばを、使ってますか？
家族みんなで、話してますか？
自分の思いを、
はっきり表現できますか？
ことばの教室「雪ん子劇団」

創立10

宇奈月ニューオータニホテル

宇奈月町桃原352-7 ☎(0765)62-1041

黒部ライオンズクラブ

黒部市牧野89-1 ☎(0765)54-1026

菅野印刷興業株式会社

黒部市三日月1143 ☎(0765)54-0112

富山

富山県

富山

富山県

株式会社

黒部

北日本新聞の
七段広告

ほんとにたくさんの方々からお祝いやはげま

十周年おめでとうございます。
元氣一杯のステージをみせてく
ださい。（県広報 佃 明美）

ご盛会を！（小林良子）

十周年おめでとう！初めて
舞台に立った時の気持を忘れず
に頑張ってくださいね。

（雪ん子OG 野畑万紀）

これからも、いよいよ雪ん子
が、きらめいて輝きつつけます
ように。（詩人 川口汐子）

おめでとうございます。劇を
見せていただいてすばらしさに
感動しました。

（富山本願寺輪番 有馬誠哉）

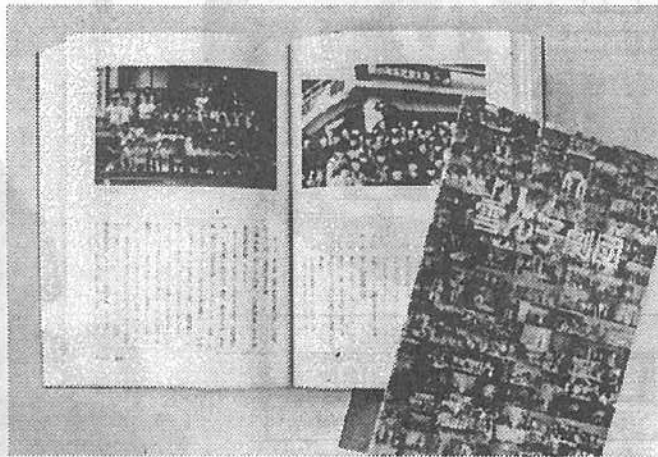
子供たちの顔がほんとに明る
く、光り輝いていますね。この
笑顔をもっと見たいように、わ
たしたち応援します。みなさん
も応援してやって下さい。

（善巧寺総代 鬼原勝次）

びっくりしました。雪ん子を
みるのは二度目ですが、うまい
ですね。それにこのパーティ！
子供とお客と地域の人たち何百
人がウズのごとくになって、本
当に感激しました。朝の便で
飛んできてよかった！

画期的な児童劇活動

宇奈月の脚本収録、子ら紹介
雪山夫妻



劇団の10年の歩みをつづった本「ことばの教室 雪ん子劇団」

書名は「ことばの教室 雪ん子劇団」。同劇団は昭和五十四年十一月に、善巧寺の「うちのまじろ学校」の中の文化活動の場として発足し、これまでに百

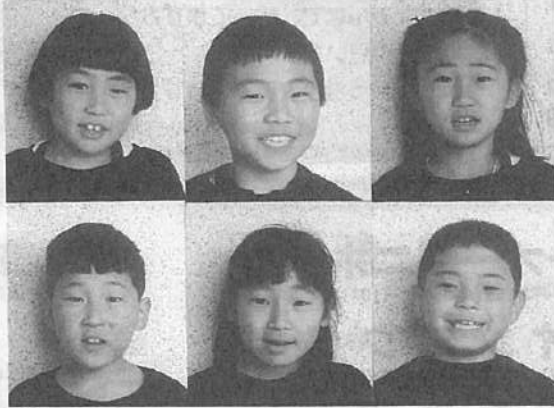
三十本を超える上演を重ね、約六万人の観客を動員した。この歩みを、雪山さん夫妻独特の教養観・人生観を通して、いきいきと描いている。また、劇団創立以来十年間続いているロングラン・ミュージカル「うちのこちゃん えらいんだ」をはじめ

「ことばの教室 雪ん子劇団」を創造していく中から、明るくのびのび、表現力豊かな子供を育ててゆく」という目標を掲げ、県内外で毎年十回前後の公演活動を行っている。地元の学校からも「もうひとつの学校」と呼ばれて歓迎されるなど、すっかり地域に根付いた劇団に成長した。

巻頭文を寄せた劇団SCOT主宰の鈴木忠志さんは「利賀村のような山村で、演劇活動をしている私にとって、励ましになる」と言い、児童文化研究家の吉岡たすくさんも「山あり、谷ありの十年間であったにちがいない。その十年間を乗り越えてこられた劇団の人たちの心の強さに感動する」と応援している。

本はB6判で、三百十六。一千部作り、劇団員の親たちでつくる後援会「宇奈月夢を育てる会」が各方面に配っている。「子供の演劇教育などに広く活用してもらえれば」と雪山さん。一冊十八百円。問い合わせは雪山さん方(〇七六五・一六五〇・五五)へ。

26日には記念公演
雪ん子劇団十周年記念公演(26日午前10時、午後1時の二部構成・宇奈月町中央公民館)



読売新聞

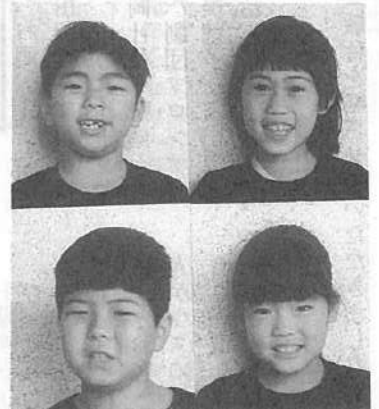
雪ん子劇団は五十四年に創立。公演回数は六十九回、観客動員は五万九千九百人にも。午前の部は、ぬいぐるみ劇「なかまたち」、子ども民話劇「ちづる」など、午後の部は手話ミュージカル、ポエム・ファンタジーほか。

富山新聞

26日に雪ん子劇団10周年記念公演
宇奈月町中央公民館

雪ん子劇団(雪山隆弘主宰)十周年記念公演が二十六日午前十時と午後一時から分けて、宇奈月町浦山の宇奈月町中央公民館で行われ、終演後、祝賀会が開かれる。また、雪ん子劇団の十年の歩みを劇とお話と三百枚の写真でつづった「ことばの教室・雪ん子劇団」(B6判、三百十六)を記念出版、「雪ん子劇団公演ビデオ」(四巻)を完成した。ことしの五月五日にはK

NB全国ネットで「今年十歳雪ん子劇団」が放送される。記念公演には群読「ことばあそびつた」手話ミュージカル「うちのこちゃんえらいんだ」などを披露する。



児童文化というものに出合ったのは、私が小学校二年、昭和二十三年のことでした。終戦直後の混乱期。六三三の新制教育がはじまり、PTAなるものもその頃できたものでした。

「子供たちの心を豊かに——」

それは挫折した大人達の願いだったのでしょうか。情操教育などという言葉が盛んに叫ばれていました。

大阪の郊外、高槻の如是小学校でも、先生方が頭をひねっていたようです。『音楽でもどうですか……』『楽器が買えないでしょう』『それに上手な先生もいないし……』

「そうだ！ 演劇がある！ 私やります。」

こう言ったのは、元陸上選手の村田昭子という女先生でした。

「演劇なら、ふだん着でできましすし、お金もかからないし……」

学校に入ったドロボーを、一人で追いかけてつかまえたというすごい女先生で、やり出したらトコトンやる、こわくてやさしい先生でした。

「よし、やろう」

校長先生もうなずきました。さっそく全校各学年から選抜され、二十人余りの児童劇団が結成されました。放課後、練習につぐ練習。そして、第一回の作品は「村のお地蔵さん」という劇に決まりました。けっこう上手なのがいりたりして、大阪府の学校劇コンクールに出演する運びとなりました。ところが、困ったのはお地蔵さんです。絵に描いたものでは迫力がない。かと言って作ればお金がかかる。

「そうだ。あの子がいい。」

先生の目にとまったのは、お寺の息子でクリクリ坊

村のはずれのお地蔵さんはいつもここにこみてござる

ことばの教室「雪ん子劇団」主宰

雪山 隆弘

主の二年生の私でした。「いい？、最初から最後まで、ゼツタイ動いちやだめよ。目をつむってじっと立っているのよ。あなた、主役なんだからね。」

主役というより、道具のかわりといった方が正確かもしれません。とにかく降ってわいた抜擢に、四十度の熱を出しながら、ただただ立ちつくしていたのです。結果はなんと、大阪大会で第二位という輝かしい成績。NHKラジオから放送もされましたが、残念ながら私のセリフはゼロ。聞いていた親戚一同がっかりしたものでした。ちなみに、その時の審査員が、児童文化研究家の吉岡たすく先生。私たちの演技が目にとまり、以後、NHK児童放送劇団、大阪朝日放送児童劇団で指導を仰ぐことになったのです。

小学校の方はそれから五年間、大阪大会で優勝一回、入賞三回という素晴らしい成績。演劇校として名を馳せましたが、女先生の転勤であえなくその火も消えました。ところが、こちらの小さな胸に灯った火は消えることなく、以後演劇を志し、早稲田の演劇科へ進み、劇団四季、青俳と新劇界へ。小二から大卒までの十五年間、あのお地蔵さんのご縁が私を演劇に没頭させたのです。

あの時、村田先生がいなかったら……。お地蔵さんが置き物でできていたらーと考えるとご縁というのは本当に不思議だし、小学校の教育というものは実にすばらしくも恐ろしいという感じがします。いや、過去を振り返っているだけではありません。いま、私は、あのお地蔵さんにご縁で、雪ん子劇団を主宰し、児童文化が私の生涯のテーマになりつつあるのですから——。

祝創立10周年

ことばの教室

雪ん子 劇団

- 生きたことばを、つかっていますか？ 本願寺新報掲載広告
- 家族みんなで、話していますか？
- 自分の思いを、はっきり表現できますか？

記念出版

ことばの教室

「雪ん子劇団」

劇団10年の歩みを、劇とお話と300枚の写真で綴った感動の書！
B6版 320頁 頒価1,800円

記念公演

3月26日(日)

午前の部10時・午後の部1時より

富山県宇奈月町 中央公民館

テレビ朝日系全国ネット放送決定！
ヒューマン・ドキュメント

ことし10才！雪ん子劇団

5月5日より各局で放送

KNBテレビが、この一年間、密着取材した雪ん子劇団の熱気あふれる活躍ぶりに注目！

好評発売中！

雪ん子劇団公演ビデオ

第一巻 「うちのとうちゃんえらいんだ！」

第二巻 民話劇「ちづる」

第三巻 ミュージカル「桃次郎の冒険」

各巻30分 頒価各5,000円

お問い合わせは ☎938 富山県宇奈月町浦山497 善巧寺 ☎0765-65-0055



北日本放送
ズームイン朝
おはようKNB



北 日 本 新 聞 平 成 元 年 (1 9 8 9 年) 3 月 2 5 日



宇奈月町浦山の児童劇団「雪ん子」は創立十周年を記念して二十六日、町中央公民館で記念公演を開く。公演が間近になり、団員の小学生たちは、連日、きびしい練習に取り組んでいる。



生き生きとした演技を披露する雪ん子劇団



あす10年の記念舞台

総勢60人が本番へ特訓

劇団は、浦山にある善巧寺の日曜学校から発展して五十四年に創立。副住職の雪山隆弘さん（68）と玲子さん（65）の夫妻が指導にあたっている。児童劇を通して身体・言葉の訓練を積み、伸び伸びとした表現力豊かな子供たちを育てるのが目的。現在の団員は、年生から六年生までの六十人で、ふだんは寺の本堂で週一回の練習を行っている。五十七年から中央公民館で春、夏の定期公演を続けて今年度の公演が十五回目になった。このほか、県内各地での公演もあり、公演ははじめて十年なんて続く。

は思わなかった」と感慨深そうに話す。二十六日の公演では、「こ」とのあてぶつた「やぬいぐるみ劇」なまた「第一回定期公演からロングラン公演を続けている手話ミュージカル」のうちのう

いんだ、同劇団が十八番にしているミュージカル「うちのうしろ」なども上演する。開演は午前十時。

十周年記念として十年の歩みをつづった本も出版し、公演会場で販売する。B判三百二十枚、千八百円。



10周年記念公演を前に練習に励む子供たち
—宇奈月町の中央公民館で

北陸中日新聞

「雪ん子劇団」

連日、練習に励む

きょう10周年記念公演

宇奈月町浦山のアマチュア子供劇団「こ」とはの教室・雪ん子劇団」が発足十周年を迎え、二十六日に宇奈月町中央公民館で記念公演を開く。同所、善巧寺副住職・雪山隆弘さん（68）が、昭和五十二年に地域の子供たちのために日曜学校を開校。月一回のこの学校は子供たちの心の教室として定着した。雪ん子劇団はこの学校の文化活動の場として五十四年に発足した。十年間続けた公演はミュージカル、民話劇、ぬいぐるみ劇と数え切れない。この間、多くの子供たちがこの劇団で学んだ。現在、団員は地元の浦山小の子供を中心に五十八人。今回の記念公演では夕鶴に題材を取った「うちのうしろ」ミュージカル「うちのうしろ」など二本。子供たちは連日、弁当持参で練習に励んでいた。春の雪山玲子さんは「ようやく十年の節目を迎えたが、地元の子供たちと理解がもう一つなのが嬉しい。演劇を通して子供たちの声は大きくなり顔の表情も明るく目も輝いている。夫婦はまた、この十年間の劇団の歩みをまとめた「こ」との教室・雪ん子劇団」も出版した。

聞きよつ十周年公演
宇奈月の雪ん子劇団
子供たちののびのびとした演技で知られる宇奈月町浦山の「雪ん子劇団」（雪山隆弘さん主宰）が、発足してまる十年を迎え、きょう二十六日、宇奈月町の中央公民館で記念公演を開く。

出し物は、手話ミュージカル「うちのうしろ」や「いんだ」など六本。開演は午前十時で、入場無料。十年間の活動を本にまとめた「こ」との教室雪ん子劇団」も、当日会場で販売する。



さわやかな演技で拍手を浴びた雪ん子劇団十周年記念公演（宇奈月町中央公民館）

「雪ん子劇団」10歳に

団員59人 記念の舞台

宇奈月

館で催され、児童たちの演技に熱い拍手が送られた。「雪ん子劇団」は演劇を通して表現力豊かな子供を育てることを目的として、昭和六十三年度の団員は五十九人、このうち十二人が小学校を卒業したため、

宇奈月町浦山、善巧寺副住職の雪山隆弘さん（五十）と、その妻が主宰する。日の放課後、善巧寺に集まることばの教室「雪ん子劇団」の創立十周年記念公演と夏に定期公演を催す。二十六日、同町中央公民館、富山新聞社主催の県子

記念公演は卒業記念も兼ねて午前部の部と午後部の部の二回開かれた。群読「ことばあそび」に始まって、ぬいぐるみの劇「なかまたち」、こども民話劇「ちづる」、手話ミュージカル「うちの子とちゃんえらいんだ」、ボエム・ファンタジー「この道」、ミュージカル「じいものまつり」が次々と演じられ、子供たちののびのびとしたステージに、会場の地区民らが盛んな拍手を送っていた。



はつらつとした演技で記念講演を盛り上げた子供たち

この日は、谷川俊太郎の「ことばあそび」を全員で唱和して幕開け。ぬいぐるみの劇、民話劇に続いて手話ミュージカル「うちの子とちゃんえらいんだ」や十八番にしているミュージカル「こどものまつり」などを次々と演じた。会場には、子供たちの家族や近所の人たち約三百人が詰め掛け、はつらつとした演技に惜しみない拍手を送っていた。

北日本新聞 「雪ん子劇団」が10周年公演

創立十周年を迎えた宇奈月町浦山の児童劇団「雪ん子劇団」の記念公演は三十日、浦山小児童のうち六十人が劇団員となっている。ふだんは寺の本堂で週一回の練習を積み、毎年、春と夏には中央公民館で定期公演を続けている。

富山テレビ 34

00 スーパータイムとやまはばたけぼくらのミュージカル・雪ん子劇団
▽消費税⑤くるま◇因



善巧寺
(宇奈月町浦山)



劇団主宰
雪山隆弘さん



10周年記念公演(3\26)
(宇奈月中央公民館)

基開寺巧善
500 年
回忌
50
前任職坊守
平成 3 年 秋

春の総代会

3 月 18 日

開基五百年前住職坊守五十回忌

善巧寺
の春の総
代会は三
月十八日
に開かれ

と例年通りにつとめられ、お講
や門徒報恩講回り、さらに門徒
法事に至るまで滞りなくつとめ
られたことは、住職のあいさつ
にもありましたように、ありが
たいことでした。

ました。仏参のあと、住職があ
いさつ。「六十三年度の寺の報恩
講まわりには、住職、若院共に
失礼をしましたが、法輪寺、照
行寺の力で、無事に終えること
ができました。これも、門徒の
皆さんのあたたかいお心のたま
もの」と御礼をのべたあと、「善
巧寺開基五百年前住職坊守五十
回忌の法要についても、是非ご
協力を」と、二年後につとめる大
法要の記念事業についての積極
的な審議が要請されました。

鐘楼は寄進で、全門徒で門徒会館を

金についてで
すが、全門徒
の募財によっ

このあと審議に入り、六十三
年度事業報告ならびに決算を了
承。今年度予算案を左頁のよう
に決めました。

六十三年度事業報告及び決算

事業に関しては、寺の法要、
行事等は、若院の入院という大
きな障害があったにもかかわらず、
春の花まつり、六月の落語
会、七月の祠堂経、八月の盆会
十月の報恩講、十一月の空華忌

元年度一般会計予算

元年度の予算については、と
りあえずは最少限に押さえて、
予算規模もやや縮小して、現実
を踏まえた額一千三百四十万円
にとどめることになりました。

代会以来滞っていた法要の記念
事業の問題が取り上げられ、次
の三点について話し合われまし
た。

- ① 鐘楼の建てかえ
- ② 門徒会館の建設
- ③ 山門の改装

まず①の鐘楼の件ですが、老
朽化がひどく、積雪時の除夜の
鐘などの危険性や、美観の点か
ら考えて鐘楼新築を今回の法要
事業の最優先にすることで意見
一致を見ました。

館の建設まではこぎつけよう」
——という積極的な意見が出さ
れ、そのためにも、まず第一の
関門の、鐘楼は、数名の寄進者
によって新築して、記念事業の
第二番の門徒会館建設を、全門
徒からの募財で進めてはどうか
と寺に打診があったことからは
じまったものです。

これはつまり、鐘楼は一口百
万円単位の寄進でその名を残し、
門徒会館は全門徒負担一口十万
円位で成しとげようという
具体的な提案でもあるわけです。
寺としては、これまでにない
積極案としてこれを検討し、門
徒会館の青写真もそえて、今回
の総代会に提案したわけです。
さて、審議のほどはといいま
す。

鐘楼寄進については「とにかく、
寄進を申し出られる方にお
礼をいわねばならない。ありが
たいこと」「長い間心配していた
胸のつかえが下りた」という感
謝をこめた賛成意見が八割ほど
でしたが、中には「一昨年来、
鐘楼についてはみんなが考えて
いた問題なのだから、一部の方
におまかせしてしまうのはどう
か」との意見も。
そして、門徒会館については
寺側の説明では、境内にある、

さんが「ごねんき」を迎えよう
となさるとき、思いつきで簡単
に……というわけにはいかないで
しょう。何年も前から、家のな
おしをしたり、新築したり、そ
れこそ、人生最高の集いを夢み
て、いろいろとご心配なさるで
ありましょう。わたくしも、ち
ょうど、そんな気持です。でき
るかぎり、盛大に、みんなによ
ろこんでいただけるような法要
にしたいと願っていますので、
みなさんも前向きに、積極的な
ご意見をお出し下さい。」
これをうけて、昨年の春の総

てまかなうのではなく一部篤志
家の寄進によって建ててはどう
か、という意見が出され、これに
ついて熱い論議がなされました。
寄進によって新築しては——と
いう意見の真意は、この問題が
一昨年に寺から説明されて以来
一向に進展しないのを見て、一
部の門徒さんから「このままで
は、法要までに鐘楼新築が実現
しないのではないか」「もし出来
たとしても、結局、鐘楼だけで
第二、第三の事業へ進まないの
ではないか」「めったにない寺の
五百年法要に、せめて、門徒会

三月四日 土曜 曇り時々雨
午前八時、善巧寺発。今にも降りそうな空模様。温度も高く、黒雲が異様に走っている。高速を富山I・Cで降り、飛行場を右手に見乍ら八尾に向う。九時、予定通り聞名寺に着く。聞名寺前坊守の葬式に列するためであり、故人は善巧寺現坊守の義姉に当る。
九時半達書伝達式に始まり、十一時半に式が終る。名利聞名寺だけに集まる門信徒で、満堂である。又、式次第の随所に、現住職の心くばりが散見される。門徒総代の挨拶にはじまり弔辞を誦経の前にし、弔電の読み上げを割愛し、門徒の焼香も焼香台を十幾つ並べて、これまた一々名前を読み上げることをしない。菊の花に埋まった遺影を前にして私も、此の日記にあ

りし日の面影を記して見たい。随分昔のことになる。その頃は八尾風の盆のおわらは、聞名寺の本堂の縁で行われていた。境内は人で埋まり、本堂をバックにおわら踊りの流れは如何にも情緒があつた。一晩泊めていただいて翌朝、故人と一緒に八尾の町並みを歩いたことがある。当時、私は教育委員をしており、八尾の川崎順二さんも御一処に教育委員で、川崎さんは「おわら保存会」の会長だった。散歩の道筋、川崎さんの家を教えて貰ったり、和紙の店を教えても



住職日記

町のあるところを案内していた。大坊の奥さまであるのに飾ったところのない格好で道行く人の誰れかに気さくに話しかけておられる。如何にも、気取りなく自然にお婆さんや子供達に語りかけておられたのを覚えてる。故人は、福井生れであるのに、八尾弁を立派にマスターして、応待しておられる。故人の生れ付きの人柄でなく、これは数年前の話である。

てはこうは出来ない。その人柄が高いつたやうな声にすっかり出ているよう、今でも、あの時の声の甘さが忘れられない。もう一つ。これは数年前の話である。

亡き人の
春の子し絵 笑み給ふ

住き人送る日 春の雨

寺
ごよみ
六月

寺
ごよみ
五月
一日 お講・音沢
一六日 お講・音沢

寺
ごよみ
五月
一日 お講・音沢
一六日 お講・音沢

一六日 お講・音沢

一六日 お講・音沢

一六日 お講・音沢

一六日 お講・音沢

一六日 お講・音沢

63年度善巧寺一般会計決算

	(収)	(入)	金	(予算)	(決算)
1.	緑	越	入	556,395	556,395
2.	布	施	収	8,650,000	7,984,483
	門	徒	法	7,300,000	6,591,000
	年	中	行	800,000	859,000
	賽			350,000	334,483
	雑		収	200,000	200,000
3.	会	別	費	4,000,000	3,815,000
4.	特	収	志	700,000	810,000
5.	雑		入	93,605	77,000
	合		計	14,000,000	13,242,878

	(支)	(出)	費	(予算)	(決算)
1.	人	件	費	6,600,000	6,600,000
2.	運	営	費	4,650,000	4,245,551
	法		要	1,700,000	1,556,343
	教		化	900,000	742,457
	寺		務	900,000	809,333
	車		費	600,000	650,292
	会		議	300,000	247,946
	接		待	200,000	196,280
	雑		費	50,000	42,900
3.	維	持	費	2,365,000	2,322,027
	宗		費	550,000	597,000
	営		繕	1,650,000	1,569,782
	保		除	165,000	155,245
4.	予	備	費	385,000	
	合		計	14,000,000	13,167,578
				差し引き	+75,300

元年度善巧寺一般会計予算

	(収)	(入)	金	
1.	緑	越	入	75,300
2.	布	施	収	8,500,000
	門	徒	法	7,200,000
	年	中	行	870,000
	賽		銭	350,000
	雑		入	80,000
3.	会	別	費	4,000,000
4.	特	収	志	800,000
5.	雑		入	24,700
	合		計	13,400,000

	(支)	(出)	費	
1.	人	件	費	6,600,000
2.	運	営	費	4,500,000
	法		要	1,600,000
	教		化	900,000
	寺		務	900,000
	車		費	600,000
	会		議	250,000
	接		待	200,000
	雑		費	50,000
3.	維	持	費	2,160,000
	宗		費	600,000
	営		繕	1,400,000
	保		除	160,000
4.	予	備	費	140,000
	合		計	13,400,000

経蔵とみそ小屋にかわる、図書館と倉庫と事務所とガレージと百人以上が一室に会食できる広間を有する百坪ほどの建物で、工費はおよそ四千万円。
これについては、将来考えてゆかねばならない問題だが、額が額だけに、もう少し時間をかけて審議しよう」と継続審議になりました。

結局総代さん方の本音は、地元に戻って、門徒衆から「またか」とおしかりをうけるのがつらい、というところのよう、でお金の問題となると、またまたイップク。記念事業は分厚いカベに。門徒の皆さん、どしどし積極的なご意見をお寄せ下さい。

門徒の皆様へ

報恩講の御礼

昨秋から今春にかけての門徒報恩講回りは、総代会の申し合わせに甘えさせていただいて、善巧寺からはお参りにまいりませんでした、誠に失礼いたしました。

おかげさまで、若院の病後は順調に回復に向かい、月二回の通院で、肝臓に点滴、投薬しており

ますもの、お酒を除いて、その他すべて制限がなく、体力も刻々と元にもどってまいりました。本当にありがたいことだと思います。

ところで、報恩講回りの折には、法輪寺、照行寺のお二人におまかせして、休ませていただいているにもかかわらず、皆様から、あたたかいお心遣いをいただき、誠にありがとうございます。

お一人づつに、お宅へおうかがいして、お礼を申し上げねばな

らないところではありますが、ご免をいただき、紙上にて、心から、ありがとうございますと謝辞をのべさせていただきます。

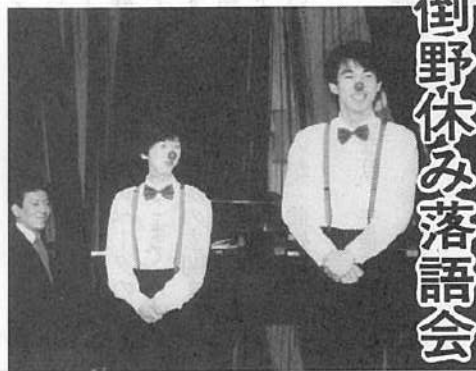
門徒の皆様へ

三月三十一日 合 掌 善巧寺若院

恒例 六輔七転八倒野休み落語会

恒例の「六輔七転八倒野休み落語会」。今年は六月九日(金)の午後七時半から、お寺の本堂で開演です。

出演はおなじみの永六輔さんに真打ちになった柳家大治さん、そして入船亭扇橋師匠、柳家小三治師匠。



でコンビを組んで活躍している二人で、これまでのマイム・默劇のワクを大きく打ち破り、奇想天外な手段で人々の潜在的想像力を刺激することにより、常に知的な笑いを巻き起こすユニークな芸術家なんですと。楽しみですねエ!

お代は会費二千元。よい席はお早目に。

仏教の教えわかります

「煩惱カルタ・本願カルタ」を出版



子供でもわかるように、やさしく表現した雪山さんの『煩惱カルタ・本願カルタ』

平易な表現、評判上々

宇奈月の雪山さん

仏教のキ・ワードなどが、一般には難解な煩悩と本願(ほんがん)をいう解な仏教の教えをよくわかるカルタの形式を借りて、子供でもわかるように、やさしく表現した「煩惱カルタ・本願カルタ」といって本が出版された。著者は、宇奈月町神山の雪山(せんざ)さん。

「このカルタを眺めて反省した人の中に、後半は本願カルタが占める。本願は仏さまの本願の類で、これも四十八例。これが、二つの衆生(しゆじやう)を救う(六道輪廻(りくなん)の罪消えて一塵(じん)も自力(じりき)のめも他力(たうりき)、というは順に続く。

善巧寺の常例行事

お寺の学校	毎月 一日・十六日
雪ん子劇団	毎月 第四土曜日
夢の会	毎週 月曜四時
花の会	毎月 第二土曜日
お経の会	毎月 第一火曜日
	第一・第三土曜日



前号で十二年、五十号を突破した「寺報善巧」、この五十一号からは表紙も新たに新しい一歩を踏み出すべく、まず、ほんの少々読みやすく、と、紙面をこれまでの十五字、三十六行、五段組みから十四字、三十四行、五段組みに改めてみました。

そして今号は、雪ん子劇団の十周年記念特集。ページ数をいつもの倍にふやして十六ページに。それも、なんと、雪ん子に關しては住職と、マスコミにおまかせして、本人は一行も書かないというハナレワザ。

それにしてもこの一カ月の、雪ん子フィーバーはたいへんなものでありました。寺史に残る記録として、こんな特集にさせていただきます。あ、そうそう、十周年の記念出版は只今売り出中、お祝いもまだまだ受け付け中です。あつかましくも、よろしくお願ひ致します。